

## 横浜国立大学学生のバイク利用実態と事故防止に関する研究

横浜国立大学大学院都市イノベーション学府 学生会員 ○原田 慎吾  
 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 正会員 中村 文彦  
 正会員 岡村 敏之  
 正会員 王 鋭

### 1. はじめに

横浜国立大学(以下本学)は学生数約 9000 人を有する国立大学であり、急勾配の続く横浜市保土ヶ谷区に位置している。学生は様々な交通手段を用いて本学へ通学しているが、周辺公共交通機関の利便性の低さと急勾配の坂の影響により、本学学生の通学手段の中でバイクが大きな割合を占めていると考えられ、実際に年間数十件ものバイク事故発生が報告されている。このような現状により、現在本学において学生のバイク事故防止へ向けた動きがある。しかし、本学学生のバイク事故防止へ向けた対策を講ずるに当たり、現在本学の学生が実際にどの程度バイクを利用しているか、またその位置づけやどのような要因がバイク事故へ関係しているかは正確に把握されていない。また、本学周辺の特徴的な立地や学生という特殊な属性もバイク事故発生の要因と成りえていることが考えられる。よって本学学生のバイク事故防止を目指すためにはこれらの把握が重要であると考えられる。

以上より、本研究では本学学生のバイク事故防止に向け、本学学生のバイク利用と事故実態を明らかとすることを目的とする。県警所有の事故データ分析、学生へのバイク利用アンケートと事故・ヒヤリハット体験アンケートという異なる 3 つの視点から多面的に分析を行うことに本研究は特徴を有する。

#### 1) 使用データとアンケート調査の概要

本研究では初めに神奈川県警察交通総務部より提供を頂いた本学周辺の保土ヶ谷区・神奈川区における大学生のバイク事故データ(第一当事者)を用いて事故発生時刻と事故件数の関係等の分析を行った。

次に、より詳細に本学学生のバイク利用と事故実態に迫るため、全学一斉のバイク利用実態アンケートと大学周辺における事故とその一歩手前であるヒ

ヤリ体験に関するアンケートという 2 種類のアンケート調査を行った。

表 1 アンケート調査概要

	バイク利用アンケート	事故・ヒヤリ体験アンケート
実施期間	2011年1月18日～1月28日	2011年1月28日～2月8日
方法	アンケート形式	インタビュー形式
回収数	1150	60
配布対象	横浜国大学生(全属性学生)	横浜国大学生(バイク利用学生)
主な質問項目	・現在の通学手段 ・免許所得後年数 ・バイク利用頻度 ・個人属性	・事故・ヒヤリ体験発生場所 ・体験発生時状況 ・個人属性

### 2. 分析結果

#### 1) 県警データによる学生と他属性バイク事故比較

初めに、2004~2009 年の期間で保土ヶ谷・神奈川区における大学生のバイク事故の発生時刻と件数についての分析を行った。また、ここでは神奈川県における全属性バイク利用者と比較を行った。図 1 より全属性バイク利用者の時刻別事故発生件数は 8 時前後に上昇しその後減少、16 時前後に再び上昇して夜間は低い値を取る事が分かる。しかし、保土ヶ谷・神奈川区の大学生においては午前中に上昇した発生件数はその後も減少することなく一定値を取り続け、また夜間における事故発生件数も県内全属性バイク利用者と比較して高いことが明らかとなった。

これら結果より、学生のバイク事故件数と発生時刻との関係では学生各個人で異なる授業開始時刻やサークル活動、アルバイトによる夜間のバイク利用等、学生特有のライフスタイルが影響を与えているのではないかと考えられる。

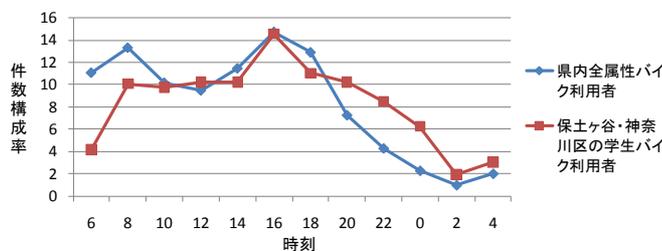


図 1 時刻別事故件数構成率

#### 2) 横浜国大生のバイク利用実態

次に、全学的なバイク利用実態アンケートから実際に本学学生のどの程度がバイクを利用し、またどのようにバイクを利用しているのか等の利用実態の

キーワード：バイク事故、ヒヤリハット  
 連絡先：〒240-8501  
 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5  
 Tel/Fax：045-339-4039

把握を行った。その結果、図 2 より本学学生の約 2 割が通学手段としてバイクを利用していることが分かる。更に図 3、図 4 よりバイクを利用する学生のほとんどが週 5 日という高頻度でバイクを利用しており、なお且つ雨天時においても小雨程度であればバイク使用するという学生を含めると約 8 割の学生が雨天時でもバイクを利用することが明らかとなった。以上の結果より、本学におけるバイク利用学生はバイクへ強く依存していると言える。

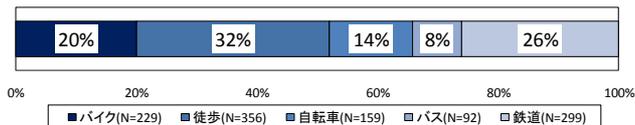


図 2 本学学生の通学手段分担

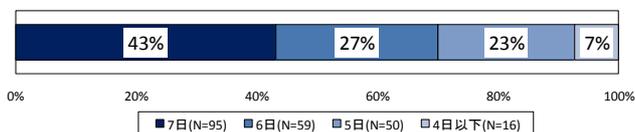


図 3 本学バイク利用学生の利用頻度(日/週)

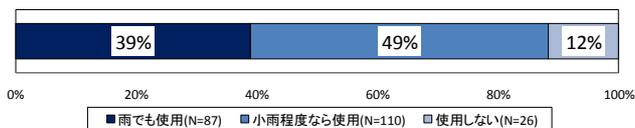


図 4 本学バイク利用学生の雨天時バイク利用

### 3) 横浜国大生の事故実態

本学学生のバイク事故実態を明らかにするため、バイクを利用する学生へ事故・ヒヤリ体験に関するアンケートを行い、発生時の状況把握ならびに発生箇所を地図上にプロットした。(図 5)これら結果から、発生箇所の多くは学生の下宿が多く存在する大学周辺の住宅街と交通量の多い幹線道路沿いに多数分布しており、中には 1 箇所につき複数の事故・ヒヤリ体験発生箇所も存在することも明らかとなった。

続いて発生箇所を車線数によって分類し、事故・ヒヤリ体験の発生割合の比較を行った。その結果、事故・ヒヤリ体験はセンターラインの存在しない 1 車線道路で最も多く発生していることが明らかとなった。これら 1 車線道路は学生の居住する大学周辺の住宅街に多く存在しており、事故・ヒヤリ体験者からは発生要因として見通しが悪い・勾配が急である等の道路構造に関する指摘が多く挙げられた。

次に事故・ヒヤリ体験時のバイク利用目的を図 7

に示した。バイク通学者は事故・ヒヤリ体験を通学・下校時のみならず私事を目的とした使用時においても体験していることから、本学学生のバイク事故防止を目指すに当たっては通学・下校時のみの対策では十分ではないと考えられる。

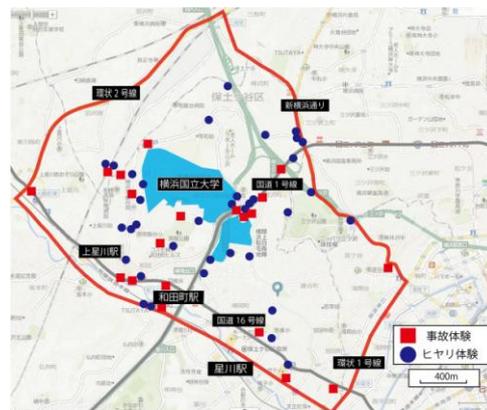


図 5 大学周辺の事故・ヒヤリ体験発生箇所

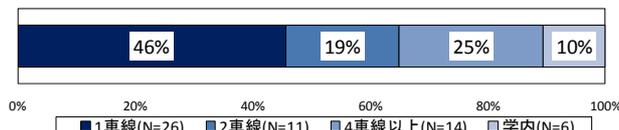


図 6 車線数別事故・ヒヤリ体験発生割合

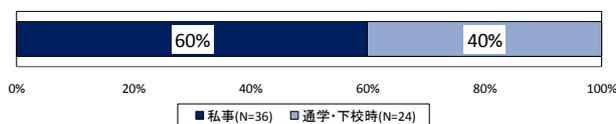


図 7 事故・ヒヤリ体験時のバイク利用目的

### 3. 結論

神奈川県警所有のバイク事故データ分析と 2 種類のアンケートを通して、本学学生のバイク利用と事故実態を明らかにした。学生の事故発生時刻には学生特有のライフスタイルが要因として作用しており、発生箇所においては地区の特徴である狭幅員道路が要因となりえていることなどが言える。今後、本学学生のバイク事故防止を目指すにあたり、これらの結果を踏まえた対策が必要である。

最後に本研究の遂行にあたり事故データを提供していただいた神奈川県警察本部交通部交通総務課の皆様へ感謝の意を記す。

#### 参考文献

- 1) 古谷秀樹, 草野薫, 浜岡秀勝, 森望:「ヒヤリデータに関する基礎的検討―把握―幹線道路交通事故分析を念頭として―」, 土木計画学研究発表会・講演集 vol.38 No.27 p.227, 2003.
- 2) 荻田賢司, 渡辺洋一, 伊藤聡子, 佐藤恭司, 築地裕:「人的側面から見た交通事故死傷者数の減少要因の分析」, 国際交通安全学会誌 vol.31 No.2, 2002.